三重短期大学附属図書館

夜本

YORU HON

October－November 2022

こんな本読んでみて

take free　No. 97

目　次

夜　本　1

Book design の 世界 vol.27　10

ちょこちょこ日記 #37　12

夜本

YORU HON

夜の入口、真夜中、そして明け方まで

長い夜のおともに「夜本」をどうぞ

夜本
YORU HON

『Blue moment』

著　者／吉村和敏
出版社／小学館
出版年／2007年
請求記号／748||Y 91

ブルーモーメントとは、朝と夕方のほんの数分だけ空が青く染まる瞬間のことです。そんなブルーモーメントを集めた写真集です。儚いひと時の美しい青色は、そのどれもが美しく、心に染み込んでくるようです。

『夜に駆ける YOASOBI小説集』

著　者／星野舞夜 ほか
出版社／双葉社
出版年／2020年
請求記号／913.68||H 92

小説を音楽にするユニット・YOASOBIの楽曲『夜に駆ける』などの原作となった小説を読むことができます。音楽と小説の魅力が合わさって、夜の時間に寄り添ってくれます。

『はじめての』

著　者／島本理生 ほか
出版社／水鈴社
出版年／2022年
請求記号／913.68||Sh 38

「はじめて〇〇したときに読む物語」をテーマに直木賞作家４人がYOASOBIとコラボした本です。この本の物語をもとに生み出された楽曲「ミスター」「好きだ」もリリースされ、音楽と合わせて楽しめます。

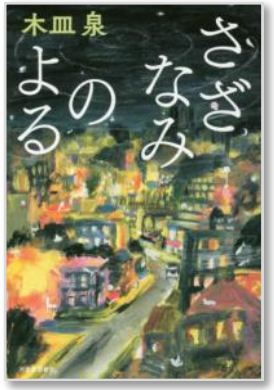
夜本
YORU HON

『活発な暗闇』

編　者／江國香織
出版社／いそっぷ社
出版年／2015年（新装改訂版）
請求記号／908.1||E 44

小説家の江國香織さんが選んだ詩を味わうことができる一冊です。さまざまな色合いを持つ詩を一編ずつじっくり味わったあと、江國さんが添えた文章が暗闇を照らす光のように染みてきます。

『さざなみのよる』



著　者／木皿泉
出版社／河出書房新社
出版年／2018年
請求記号／913.6||Ki 97

富士山の近くにあるお店「富士ファミリー」を営んでいた次女・ナスミをめぐる物語です。悲しみを越えてつながっていく命を温かく感じられる一冊です。

『ミッドナイト・バス』

著　者／伊吹有喜
出版社／文藝春秋
出版年／2014年
請求記号／913.6||I 12

東京での仕事を辞め、故郷で深夜バスの運転手をしている利一は、別れた妻と再会します。それぞれの事情を抱える深夜バスの乗客の姿や家族の再出発を温かく描いた作品です。

夜本
YORU HON

『暗がりで本を読む』

著　者／徳永圭子
出版社／本の雑誌社
出版年／2020年
請求記号／019.9||To 41

書店員である著者が本の魅力を伝える一冊。静かにすっと染み込むような文章で、本を読むことに迷ったときにそっと開きたくなる本です。

『みじかい眠りにつく前に
真夜中に読みたい10の話』

編　者／金原瑞人
出版社／ジャイブ
出版年／2008年
請求記号／913.68||Ka 52

翻訳家・金原瑞人さんが選んだ９編と作家・森絵都さんが選んだ１編を集めたアンソロジー。どれも味わいのある短編ばかりです。選者の二人による対談も興味深いです。

『夜ふかしの本棚』

著　者／朝井リョウ ほか
出版社／中央公論新社
出版年／2020年
請求記号／019.9||A 83

６人の人気作家が影響を受けた本を紹介する一冊です。作家による本の話を読むうちに、身近に感じられてくるのは、夜ふかしのおかげかもしれません。

夜本
YORU HON

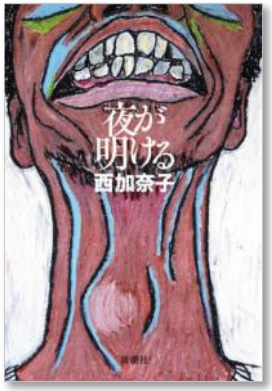
『明け方の若者たち』

著　者／カツセマサヒコ
出版社／幻冬舎
出版年／2020年
請求記号／913.6||Ka 87

「私と飲んだ方が、楽しいかもよ？笑」そのメッセージから始まった恋。思い通りにはいかない現実。ヒリヒリとした痛みのなかに、消えようのない輝きを感じる作品です。

『夜が明ける』

著　者／西加奈子
出版社／新潮社
出版年／2021年
請求記号／913.6||N 81



高校で出会った「俺」とアキの友情と成長を描いた作品。どんなに深く暗い夜でも、その先に夜明けがくると信じてみたくなる一冊です。

『夜が暗いとはかぎらない』

著　者／寺地はるな
出版社／ ポプラ社
出版年／2019年
請求記号／913.6||Te 42

行方不明になった「あかつきマーケット」のマスコット・あかつきんが町のあちこちで人助けをしているらしい。暁町に暮らす人々の心情を丁寧に描いた、続いていく日々を温かく照らす13の物語。

Book design の世界 vol.27

大岡　喜直さん (next door design)

本を選ぶ時、表紙や本のデザインに惹かれて選ぶことがあります。本を開くとそこに書いてある「装丁」という言葉と名前。

本のデザインをする方を装丁家やブックデザイナーと言います。この連載では本のデザインや装丁から、本を楽しみたいと思います。

第27回目は、大岡 喜直さんです。

今回は、デザイン事務所next door designの大岡喜直さんが手がけられた装丁をご紹介します。

カバーイラスト：丹地陽子
水墨画：砥上裕將
カバーデザイン：大岡喜直
(next door design)

一冊目の**『線は、僕を描く』**(砥上裕將著／講談社／2019年／913.6||To 21) は、2020年本屋大賞第３位の作品です。2022年10月21日には横浜流星さん主演の映画化作品が公開されます。装画は丹地陽子さんによるもので、にじんだような淡い色合いの中に描かれた主人公・青山霜介を思わせる人物の姿にどんな感情なのだろうかと心惹かれます。

カバー装画：杉山巧
装幀：大岡喜直(next door design)
表紙水墨画：砥上裕將

『7.5グラムの奇跡』(砥上裕將著／講談社／2021年／913.6||To 21) は、街の眼科医院を舞台に「見える」ということの奇跡を伝える物語です。杉山巧さんによる装画からは、光あふれる日常の美しさを感じます。カバー全体をじっくりと見つめたくなる装丁です。

装丁：大岡喜直
(next door design)

次の**『思考法図鑑』**(アンド著／翔泳社／ 2019年／336.2||A 47) は、さまざまな思考法を学ぶことができます。温かみのあるクラフト紙に、様々なアイコンが並んでいます。アイデアのひらめく様子がイメージでき、前向きな印象を受ける装丁です。

装丁：大岡喜直(next door design)
装画：いわしまあゆ

『アパートたまゆら』(砂村かいり著／KADOKAWA／2021年／913.6||Su 73) は、アパートの鍵を忘れてきてしまったことから始まるラブストーリー。アパートの隣同士の部屋を描いた装画と線の細い文字を使ったタイトルから夜の静けさとあたたかさが伝わってきます。

カバー写真：Moonstone Images/Gettyimages
カバーデザイン：大岡喜直
(next door design)

最後に**『自由研究には向かない殺人』**(ホリー・ジャクソン著／服部京子訳／東京創元社／2021年／933.7||J 12) をご紹介します。高校生のピップが自分の住む町で起きた事件の謎に迫るミステリー作品。何でもない町の風景写真に見えますが、どこか不自然な色鮮やかさとまぶしい光が気になります。どんな真実が待っているのか、期待と緊張感が高まるデザインです。

今回ご紹介した大岡喜直さんの手がけられた装丁は、それぞれ違うジャンルの本の魅力が見事に引き出されていて、デザインの持つ力を感じました。

次回もお楽しみに！

ちょこちょこ日記 #37 「もうすぐ No.100」

2005年から発行している図書館のフリーペーパー「こんな本読んでみて」が、もうすぐ No.100 を迎えます。

そこで、No.100 記念企画として、「あなたの好きな本教えてください」アンケートを行いたいと思います！ぜひ三重短生のみなさんの声を聞かせてください。

あなたの好きな本なら、図書館に置いてある本でも置いていない本でも大丈夫です。アンケート用紙にご記入いただき、図書館内のポストまたはカウンターまでご提出ください。募集期間は、2022年10月3日～12月26日です。No.100は、2023年3月の発行を予定しています。

ご協力よろしくお願いします！

次号 No.98 は、2022年12月発行予定です。

こんな本読んでみて　No.97

２０２２年１０月１日　発行

編集･発行　三重短期大学附属図書館

〒514-0112 三重県津市一身田中野157

http://www.library.tsu-cc.ac.jp/